

大正時代の宇堅とその周辺地域の概況図



宇界（宇堅の区域）



集落（宅地）



道路

戦前の宇堅集落とその周辺地域の地図である。集落規模をみると、宇堅集落は小さく、隣接の天願や田場、具志川が大きな集落であることがわかります。現在の宇堅公民館が位置する一帯の集落は先住の方々が集居した碁盤目状の居住地が広がっています。その北側から東、南にかけて小さな塊りの集落が散居して広がっています。これは「屋取(ヤードウイ)」と称される方々の居住地で、『大久保』と『濱原』のヤードウイ地名が見られます。その頃は天願川に架橋されてなく、浅瀬を渡るルートと天願集落につながる道路が他地域との連絡路となっており、交通の不便な土地柄であったようです。戦後の米軍占領で攪乱される以前の、ほとんど農業で生計を立てていた当時の状況を垣間見ることができる。隣接の赤野が赤納と記されているように、現在表記と異なるなど、現在の居住地地名以外の地名が表記されている。

この地図は、参謀本部・陸地測量部(大正8年測図、大正 10 年7月 25 日発行)作成図がベースである。宇堅一帯の宇界や集落、道路を彩色トレースで強調したものであるが、元図が不鮮明(複写である)であることから、細部のトレースにおいては誤写の可能性がありま

